

## 2 中高連携英語力向上 第2年次の歩み

### (1) 郡上市立八幡中学校における実践

#### < 授業実践 >

##### 授業実践に向けての構え

- ・ねらいの明確化とねらいに迫るための効果的な指導計画の工夫・改善を行う。特に、単位時間の役割の明確化に取り組み、生徒自身が学習の見通しがもてる自己評価カードを作成する。
- ・基礎的・基本的な内容の定着を図るための指導と評価を工夫する。特に、表現する力「話すこと」「書くこと」を中心とした指導の在り方を探る。
- ・学習意欲を喚起するため、学習プリントや資料の有効な提示の仕方を考える。
- ・コミュニケーションを図る活動を豊かに行うことができる学習集団の育成を図る。

##### 第1回授業交流研究会

【期日】 平成18年6月23日(金)

##### 【公開授業】

- ・単元名 New Horizon English Course 2 Unit 2 Emi Goes Abroad
- ・授業学校・学年 八幡中学校 2年
- ・主な提案内容 つけたい力に迫るための指導計画と魅力ある出口の活動の工夫  
伝えたい事柄を相手の理解を確かめながら話す活動  
コミュニケーションを図る活動を豊かに行う学習集団の育成

##### 【授業研究会】

- ・学習形態を工夫(個人・ペア・グループ練習)することで、何度も繰り返し音読練習できた。それにより、音読が得意でないと感じている生徒であっても、自信がもてるようになり、原稿に頼らないで対話しようと意欲的に取り組む生徒が増えた。
- ・「フォークダンス形式」で対話練習をすることにより、相手を次々と替えながら対話する機会が設定され、生徒の動きが多い授業となった。また、活動のたびに課題をレベルアップする指導の仕組みが良く、全ての生徒に指示が徹底していた。
- ・本文内容や活動の指示を学級全員が理解できるように日本語で確認をする場面があったが、未習の表現であっても類推して理解する能力を身に付けさせるためにも、もっと多くの場面で英語を活用すべきである。同時に、生きた英語表現をより多くインプットするためにもALTを活用する場面と方法を工夫する必要がある。
- ・原稿を見て話す現状から脱却するための工夫が必要である。文の数を少なくし、相手に応じてその場で付け加えたり、考えて話す場と時間を確保し、習慣づける必要がある。

##### 第2回授業交流研究会

【期日】 平成18年10月10日(火)

##### 【公開授業】

- ・単元名 New Horizon English Course 3 Unit 4 An American Rakugo-ka
- ・授業学級 八幡中学校 3年 Bコース(習熟度別少人数クラス)
- ・主な提案内容 内容をまとまりのある簡潔な表現で表す力を伸ばすために継続している Picutre Talk での Warm Up 活動  
必然性を感じる言語材料の導入の仕方  
単位時間における PPP(Presentation, Practice, Performance)の場面と流れを踏まえた指導過程  
「話すこと」の定着に生きる「書くこと」の指導

## 【授業研究会】

- ・ Picture Talk では、写真や絵を指しながら過去形、未来形、現在完了形（経験）等の既習表現を用いて積極的に対話する姿が見られた。
- ・ 導入場面において、読むことが難しい漢字を提示することにより、スムーズに how to read ~ を導入することができた。ペア活動にも意欲的に取り組む姿が見られた。付けたい力の定着や意欲の向上のために、ペアや小集団の学習は有効であった。
- ・ PPP の場面と流れ、教諭の指示が明確であり、対話活動の目的が生徒に十分理解されていたので生徒は意欲を継続して活動に取り組むことができた。
- ・ 意欲的に話す活動に取り組む生徒の姿勢と表現を認めると同時に、文法的な誤りの指摘をして、生徒が使用したい表現を見直す機会をもつことで、より確かな表現を身に付けさせる必要がある。
- ・ 「書くこと」の力を定着させるために、毎時間少しずつでも書く場面を位置付けることが必要である。「話したことを書く、聞き取ったことを書く、言えるようになった表現を書く」等、内容や方法を工夫することで「書くこと」に抵抗を感じる生徒が減少するのではないか。

## <グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

【期日】 平成18年8月22日（火）

【受験者】 スタートーズ... 15名 ムーバーズ... 14名

### 【結果分析】

スタートーズもムーバーズも、世界平均に最も近いのは「話すこと」のポイントであった。これは普段の授業から「話すこと」に力を入れて指導してきた成果の表れと考えられる。「聞くこと」において、スタートーズでは「単語・位置を表す言葉を聞き取る」ポイントが、ムーバーズでは「情報を正確に聞き取る」ポイントが高かった。受験者が2・3年生であり、英語をたくさん耳にしてきた慣れがあることと、授業において正確に聞き取ることをALTと協力して継続してきた指導があったからこそだと考える。しかし、「読むこと」「書くこと」においては、他の項目と比較してポイント数を大きく下回っている。特に、スタートーズでは「読解力、書く能力」、ムーバーズでは「文章中の空欄に1単語（名詞・動詞・形容詞）を補充」するポイントに課題を残した。

そこで今後は、「話したことを、聞き取ったことを正しく書くこと」や「話したり、書くために内容を正しく読み取ること」を大切に指導を積み重ねていく必要がある。

## <学習環境の充実>

英語教材の充実：英和辞典と和英辞典

生徒一人一人が和英・英和辞典を手に取り、自分の表現したい内容を英語で表す際に役立った。例えば、1年生では自己紹介文の作成、2年生では公園が駐輪場に変わることに対する意見を書く場面で、3年生では携帯電話に関わる意見を書く場面で利用した。生徒は自分の意見を書く際、出来るだけ簡潔に表現することや表現が難しい場合は別の表し方はないかどうか考えて表現しようとする態度が育ちつつある。辞典を活用することで言葉に関する関心を高めただけでなく、表現することへの意欲も喚起することができた。

英語教材の充実：ジュニア英語名作ライブラリー（おとぎ話）

前述の英和辞典を活用しておとぎ話を自分の力で読む活動を行った。長文読解は生徒にとって

苦手な分野であるが、おとぎ話であり、挿絵もあることから話の展開を楽しみながら読むことができた。普段から教科書を予習して、授業前に内容を知ってしまっている生徒も、初めて出会う未習語を類推した後に辞典で意味を確かめ語彙を増やそうとする姿勢が育ってきた。

< 成果と課題 >

ねらいの明確化とねらいに迫るための効果的な指導計画の工夫・改善に取り組み、単元毎に自己評価カード(下記参照)を作成してきたことにより、教師は勿論、生徒にも単元の終末となる活動とそこへ至るまでにどんな力を自分達は身に付けることができればよいのか、見通しをもつことができた。それが学習意欲の高揚と継続に繋がった。

話すことを目指して書く指導に取り組んできたことで、何を、どれくらい、どうやって書けるようになることを目指すのか、それを話すことにどう発展させるのか単元毎に意識して指導するようになった。

グローバルスタンダードによる英語分析調査を通して、世界平均と生徒自身の力を比較することで生徒は自分の課題を客観的に理解することができ、その後の学習に目標をもって取り組もうとした。また、教師側は「読むこと」「書くこと」の力に大きな課題があることを数値として知ることができ、正確に書く力を身に付けさせるための指導の在り方を追究するよい機会となった。

4領域を意識しながら指導を重ね、「書くこと」にも取り組んではいるが、どうしても「書くこと」の指導にかかる時間が他領域に比べて少なく、定着が不十分であることが高校との交流からも明らかになった。スペルの正確さは勿論だが、線上に正しく書けない、大文字小文字を適切に使えないなど基本的な事柄についても正確さを求める指導を継続する必要がある。

原稿を覚えて話すという段階から即興的に自分の気持ちや考えを話す段階を目指すためにも、必然性のある課題の設定と自己表現する機会や場の確保が必要である。また、表現する際に、正しく確かな表現ができるよう、指摘や修正の場を位置付けることが求められる。

2年英語 Unit2 自己評価カード

Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

**単元の目標**  
 Harrisに八幡町や日本のものを紹介する活動を通して、未来形の意味、call, showの用法、高さ・長さ・重さ等の表現方法が分かり、機嫌に気をつけて話すことができる。

- A. しっかり理解し記入が困難でない。
- C. あまりで難しかった(分からなかった)
- B. ほとんど理解が分かった。
- D. できなかつた(理解が分らない)

No.	1月前半	2月後半	3月前半	3月後半	4月前半	4月後半	5月前半	5月後半	6月前半	6月後半	総合評価	
											達成率	達成率
1	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.	未来形を用いて明日や週末の予定を説明することができる。										
2	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.	マイクの前奏の予定を説明することができる。										
3	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.	入国審査に必要書類、滞在日数を説明することができる。										
4	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.	テキストとは何か読み取り、数字を用いて表すことができる。										
5	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.											
6	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.	call, show, show A+Bの用法を正確に説明することができる。										
7	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.	結果は何と何とあるか?と尋ねているか読み取り、答えることができる。										
8	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.	日本/八幡町の紹介文を正確に意味を要約し説明することができる。										
9	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.	グループ内で話し、話し、質問することを通してグループに伝えることができる。										
10	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.	授業中や休み時間に聞き取る。										
11	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.	丁寧な話し方、質問を求めがける態度を使って説明することができる。										
12	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.	特別プレゼンテーション										
	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.											
	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.											
	1 2 3 4 5. 6. 7. 8.											

【自己評価カード(例)】